平成 30 年度

自己点検
及び
自己評価項目

学校法人つくば文化学園
日本つくば国際語学院

自己点検・自己評価項目

実施責任者
日本つくば国際語学院
校長　今瀬　文隆

評価基準
5:達成している　4:ほぼ達成している　3:どちらともいえない　2:取組を検討中　1:改善が必要

(1)教育理念・目的等

評　価　項　目	評価
学校の理念・目標は定められているか	4
育成人材像・特色などが明確になっているか	4
理念に基づいた人材教育が行われているか	4
理念と教育目標が職員や生徒・保護者に周知されているか	3
課題　教育理念・目標・人材像が明確化されていないが、どうやって現実のものにしていくか?	
今後の改善方策　学校の運営者と紹介者が日本語学校に求めているものをすり合わせる必要がある。学生たちが日本と母国の懸け橋になれるように、教職員一同努力をすべきである。	

(2)学校運営

評　価　項　目	評価
運営方針は定められ、職員に周知されていて実行しているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
中長期的に学校の予算・収支計画は有効かつ妥当か	5
運営組織や意志決定機能が確立され、効率的なものになっているか	4
人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能は整備されているか	4
危機管理体制及び施設・設備は教育上の必要性と学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	4
課題 次年度以降の学生の夏休みの時期・卒業式の時期・後期終業式の時期について	
今後の改善方策　都内を中心に専門学校入試時期の早期化が進んでいて、早くも9月には合格者が定員に達する学校もあるくらいである。そのため、次年度からは、本校の夏休みの時期を前倒しし、7月下旬～8月中旬に設定したほうがよいと思う。それに対し、卒業式や後期終業式の時期は、3月中旬が望ましいと言える。	

(3)教職員

評　価　項　目	評価
教育理念・目的が教職員間で共有されているか	4
教育目標を達成するための取り組みがされているか	4
教職員の評価を行っているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3
課題　教育理念・目的・目標の共有が、しっかりなされていないので、明文化して項目の中に追加したほうがよい。教職員の評価方法については、どのように行うのが適切なのか、統一見解が必要である。それから、現在、クラス B やクラス C で行われている補習授業や再試験(追試験)の在り方についても、再度見直す必要があるのではないか。	
今後の改善対策　本校教員を、日本語教育学会などの現職者研修会や文化庁プログラムに参加させる。日本語教師の免許制度化(3～5 年後)を念頭に現制度下での免許制度化が必要だと思う。補習授業や再試験(追試験)については、各教員とも 2019 年 4 月より週の担当コマが増えるので、エンドレスに時間無制限・回数無制限で行うのではなく、時間や回数を制限して、より簡潔に行うべきである。	

(4)教育活動

評　価　項　目	評価
進学のためのカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実践されているか	4
学習理解の到達度の確認はされていて成績評価は適切か	4
教育目標に適合した教材や機器が使用されているか	4
各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	4
目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	4
課題　現実の学生レベルとのずれ、授業進度の問題、評価科目の設定、教員確保の問題(できれば、日本語教育を専攻してきた教員を確保したい)	
今後の改善方策　「みんなの日本語」の学習到達度を測るのに、本当に標準問題集やそれに準拠するテストだけでいいのだろうか。不足はないのであろうか。それより何より、学生の能力の問題もあり、クラス B・クラス C の「みんなの日本語」の授業進度が学生入学以前の予想より遅いのが気がかりだ。上位の学生の芽を伸ばし、大学・大学院進学希望者の希望に応えるためにも、授業の進度はもう少し早めてもいいのではないだろうか。	

(5)学生支援

評　価　項　目	評価
進学に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4

学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
学生寮、学生の生活環境への支援は行われているか	5
経費支弁者や、個人で学生を紹介してくれた人と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
課題　経費支弁者との連絡方法など、体制が整っていない。進学指導については、これから本格化するので、まだ評価が難しい。	
今後の改善方策　協定を結んだ筑波学院大学との間で「指定校推薦枠」を確保することが重要(5人～10 人)。さらに、本校卒業までの間に N3 レベルに達しなかった学生、すなわち N4 レベルの学生でも入学できる専門学校が、果たしてどのぐらいあるのか、チェックしていく必要がある。	

(6)学生募集と受け入れ

評　価　項　目	評価
学生の受入れ方針は定まっているか	4
学生募集活動は適切に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正しく伝えられているか	4
入学選考は、適正かつ公平は基準に基づき行われているか	5
学生定員設定は適正及び在籍者数になっているか	5
課題　まだ定まっていないことや、これから変更すべきことが多い。数年かけて整えていかなければならないと思う。とりわけ、日本の大学や大学院への進学を希望する学生を積極的に受け入れていくべきだと思う。	
今後の改善方策　特に、30 歳以上の学生や既婚の学生、子どものいる学生については、進学が目的ではない可能性もあり得るので、これらの学生の受け入れには慎重になるべきだと思う。	

(7)在籍管理と生活指導

評　価　項　目	評価
学生の生活指導責任者及び入管事務担当者が特定され、学生に周知されているか	5
我が国の法令を遵守させるための指導は行われているか	5
学生が母国と日本の文化の違いを理解するための指導やアドバイスが行われているか	5
入国・在留関係の管理や指導と支援が適切に行われているか	5
常に学生の最新情報を把握しているか	5
課題　本アンケート調査を実施した 2018 年 8 月の段階では大きな問題はなかったが、十分に評価できるほどの材料に乏しいため、今後のことを決めていく必要がある。ただし、2018 年 8 月に実施したつくば中央警察署員による「交通安全講習会」は意義があったと思う。	
今後の改善方策　先述のつくば中央警察署員による「交通安全講習会」は、日本での法令を本校の留学生たちに順守させるための指導と位置づけられるが、今後も、毎年、このような講習会を	

開くと同時に、交通ルールのみならず、犯罪防止や万引き防止などの指導もあわせて実施していきたい。

(8)安全・危機管理

評　価　項　目	評価
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
感染病発生防止・発生時の措置を定めているか	2
防災に対する体制は整備されているか	3
災害時に対する避難訓練を定期的に実施しているか	2
災害時の避難経路、方法、場所を定めているか	4
課題　災害時の対応を明確化し、教職員間で共有するとともに、学生にも周知徹底する必要がある。このうち、施設・設備については、学生にとって最善の環境になるように取り組んでいるところである。大きい地震や台風の襲来が増加している現状を考えると、とりあえずは、避難訓練だけでも定期的に実施していく必要があると思う。	
今後の改善方策　消防署などの協力を得て、避難訓練のみならず、防災訓練も定期的に実施するようにする。さらに、避難ルートに関しては、学校から避難所までのルートだけではなく、学生寮から避難所までのルートも学生たちに周知徹底させるようにする。	

(9)財務

評　価　　項　目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適切に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4
課題　本校の現段階での財務状況については、教職員に公開されていないので、課題を見つけようがない。	
今後の改善方策　先述のような理由のため、改善方策についても、検討の余地がない。	

(10)法令等の遵守

評　価　項　目	評価
法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4
自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5
自己点検・自己評価結果を公開しているか	3
課題　 個人情報の保護規定を作成したほうがよいと思う。	
今後の改善方策　この「自己点検及び自己評価報告書」そのものも個人情報に関するものなので、	

慎重に取り扱っていく必要がある。

(11)社会貢献

評　価　項　目	評価
学生の教育資源や施設を活用した社会貢献に努めているか	4
学生のボランティア活動を奨励・支援に努めているか	3
課題　学生たちは今年の4月に来日したばかりで、現在はまだ各自生活の基盤を整える時期であり、ボランティアなどの社会貢献をするような状況になっていない。ただ、将来的には、学生の社会貢献活動やボランティア活動を推進していきたい。	
今後の改善方策　社会貢献活動やボランティア活動に参加することは、地域や社会のことを知り、さまざまな人と交流していくうえで非常に大切なことだと思う。日本での生活基盤が確立され次第、このような活動に学生たちを積極的に参加させていきたい。	

(12)総括

本校は2018年4月に開校した日本語学校であるが、今回、自己点検調査を行ってみた結果、今後、本校が発展していく上で様々な課題や問題点が浮き彫りになったことがわかる。

学生募集に関して言えば、定員を満たすことにだけ関心が行きがちになり、どのような国からどのようなレベルの学生を集めたらいいのか、そのビジョンが明確化されていない。

本校は、進学を目的とした日本語学校なので、校内における応募書類のチェックを厳格化し、スカイプ面接のみならず、アジア近隣諸国については、本校スタッフを現地に派遣し、現地で面接や筆記試験を行うことで、より優秀な学生を選抜できるよう努力していきたいと思う。

さらに、学生が入学してからも、現地仲介会社や個人の学生紹介者と頻繁に連絡を取り合い、学生たちの希望する進学先に無事に進学できるよう、皆でバックアップしていきたい。

教員のスキルアップについては、民間の日本語教育機関が主催している日本語教育の研究会や指導法研究会に本校教員を随時参加させて、日本語教師としてのスキルアップを図っていきたい。

その一方で、各教員が過度の業務負担にならないような配慮も、今後は必要になってくると思われる。特に、授業終了後に不定期に行われている補習や度重なる再試験・追試については無制限に行うのではなく、教員にとっても学生にとっても短時間かつ有益に実施できるようにしていきたいと思う。

実際に入学してくる学生の学力と、教員が理想としている学生像は必ずしも一致するとは限らないが、学生の目標と教員および学校側が掲げる理想の学生像が一致できるように、質の高い学生の確保と教員の質の向上を今後進めていきたいと思う。